

## 生命環境系長の退任にあたって

平成 27 年 3 月 31 日 白岩 善博

東日本大震災（3.11）直後の 4 月 1 日に生命環境科学研究科長と同時に「系長」となり、研究科長・系長（6 ヶ月）、10 月 1 日の生命環境系発足に伴い研究科長・生命環境系担当の系長（6 ヶ月）、そして生命環境系長（3 年間）を勤めさせて戴きました。

4 年間、今振り返ってみて、多くのことに取り組みそれを成し遂げることができたのは皆様のご協力・ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。特に、系長期間においては、「5 者ミーティング」（系長、研究科長、学群長、英語プログラム代表）、支援室長の 5 人）を定期的に開催し、そこで認められた活動方針を e-mail の活用により生命環境系・研究科運営委員会委員に周知しました。そして、その実施に関して、第 2 エリア支援室長・副室長との「五人六脚」による実行を可能とするなど、密な協力体制を構築できたことが全ての元となっており、皆様のご理解とご協力に心からの感謝を申し上げる次第です。加えて、合わせて二名の系長室職員（秘書・URA）には従来の業務に無いさまざまな業務を行っていただきましたことに感謝申し上げます。

さらに、学長はじめ本部との連携による多くのご支援に加え、何にもまして生命環境系教員、職員の皆様のご深いご理解と大きなご支援をいただきましたことに深く感謝申し上げます。



3 年間二人三脚の中山幸男支援室長と共に



系長秘書・藤枝八千代さんと共に



修士・博士取得の研究室学生たちと共に



離任式での花束

## 資料

生命環境系長としてかかわった主な事項（2011.4.1～2015.3.31）：

「安心・安全」面では、就任初日の第2エリア全域の視察と全利用者組織長を集めての対策会議、廊下物品の完全撤去、生命環境系防災対策本部（系長室）の24時間無停電化、災害・海外旅行中の教職員・学生の全学安否確認サイトの活用による安否確認法の確立、生物農林学系棟のセキュリティ強化、第2エリア喫煙所の整理、学群D棟ラウンジの設置、学群G棟ラウンジの整備、学群C棟・D棟中庭への避難路設置、天の川傍のケヤキ周囲の憩いの場の整備、学群H棟・B棟中庭の避難路の整備、生農棟5階と6階のサロンの整備などに取り組んだことです。

「業務改善・環境整備」面では、学群D棟ラウンジの設置、廃棄物集積所への監視カメラ設置による職員の業務負担軽減、生物・農学3専攻庶務・会計事務室の支援室への統合、「旅へ」モニユメントの設置、ICタグ導入と活用による自転車問題解決への貢献、生農A棟の「国際・教育ファシリティ化」（G30オフィス、大学院共通科目オフィス、教員免許教育支援オフィスの集積）、芸術系との連携アドバイザー契約による芸術的センスに基づく職場環境の整備、会議時間の短縮（1.5時間化）、運営委員会の機能向上と専門職員配置、委員会の原則廃止、系・研究科等の報告書作成業務の担当職員の配置、支援室職員によるグローバル連携サポートチームの結成と事務職員の海外派遣の促進、総合研究棟A棟の生花などに取り組みました。

「広報」面では、系・研究科HPを統合し、ネット業務専門職配置による体制強化により研究・教育・学生活動の迅速かつ的確な広報の実現、系長一系長室秘書一広報担当職員一系配置URAの連携強化などの実現に取り組み、「系・研究科HPの見える化」の実現を果たすことが出来ました。

「学術」面では、多くの概算要求事項の申請と獲得、特別経費、教育プログラムの獲得、地球・生命共生科学研究機構（重点学術センター）の設置などに取り組み、全学でも高額予算獲得組織としての地盤を構築しました。この間、防災研究棟、陸域環境センターのアイソトープ環境動態研究センターへの統合、井川演習林の山岳災害研究体制の充実、菅平高原実験センターの機能強化、学術活動の活性化にも貢献しました。これらは、各センター長、教職員、大学の支援で実現できたものです。

「国際」面では、まず、JUC加盟とマレーシア工科大学MJIITとの連携強化と海外オフィス（KLオフィス）開設に積極的に取り組みました。同時に、研究科長が進めるフランス・ボルドーオフィス開設の支援、豪州・タスマニア大学に学生の国際化能をトレーニングする海外ベースキャンプ開設などに取り組みました。これも、大学国際室、各専攻、教育企画室長との連携で可能となったものです。

種々ご協力いただきました皆様方に等しく心からの御礼を申し上げます。